

令和2年2定 一般質問 開催状況

開催年月日 令和2年(2020年)6月24日

質問者 日本共産党 真下 紀子 議員

担当部課 総合政策部政策局総合教育推進課

質問要旨	答弁要旨
<p>六 教育問題について</p> <p>(一) 新型コロナ対策の影響等について</p> <p>2 「北海道スタイル」による子どもへの影響について</p> <p>北海道スタイルには、教育についての言及がありません。法的根拠も権限もないまま、鈴木知事が要請した一斉休校によって、本来子どもたちが経験できた学びや友達づくりなどが、3カ月に及ぶ巣ごもり状態によって機会が失われ、登校を嫌がる子どもたちも出てきています。知事及び教育長は、全国で最も長い休業による子どもたちの影響をどうとらえているのか伺います。</p> <p>(二) 教員の働き方について</p> <p>1 少人数学級の感染対策効果等について</p> <p>次に、教員の働き方についてです。</p> <p>一斉休校後の学校再開にあたって、1クラス当たりの人数を半減させる形で分散登校が実施されました。ソーシャルディスタンスが確保できる上、一人ひとりの児童生徒に目が行き届くと現場の教職員からは歓迎する声が寄せられています。</p> <p>分散登校の際に実施した少人数学級は、感染対策や教職員の負担軽減、北海道スタイルに照らして効果があると見込んでおられるのか、知事及び教育長の見解を伺います。</p>	<p>【総合政策部長】</p> <p>休業による子どもたちへの影響についてであります。長期にわたり学校生活から離れていたことなどから、児童生徒の皆さんの中には、生活習慣の乱れや学習の遅れ、感染症の拡大など、様々な不安やストレスを抱えた子どもたちもおられると伺っているところであります。</p> <p>このため、道では、学校再開に当たり、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな心のケアへの適切な対応など、各学校が、感染リスクを可能な限り低減しながら、子どもたちの不安を解消し、健やかな学びを保障できるようスクールカウンセラーの派遣など道教委と連携をして、支援していく必要があると考えております。</p> <p>【知事】</p> <p>最後に、分散登校についてであります。学校の臨時休業が長期化する際、分散登校は、新型コロナウイルスの感染拡大リスクを抑えながら、子どもたちの健康状態や学習状況を把握する観点から、有効な手立ての一つと認識をしております。</p> <p>各学校では、その実施に当たり、クラスを少人数のグループに分け、児童生徒の間の距離を確保するなど、感染リスクの低減に取り組んでいただいたところであり、「3つの密」を回避しながら段階的な学校再開にも効果があったものと考えております。</p> <p>今後は、国の衛生管理マニュアルに基づき、「北海道スタイル」にお示ししている新しい生活様式が各学校にも定着するよう、道としても道教委と連携しながら取り組んでまいります。</p>

